

# 能代市「風の松原」の保全管理



## 地域の方々と連携し、 協働型海岸林保全プロジェクトを新たに始動します

### 背景

- 日本最大規模を誇る松原といわれる能代市の「風の松原」は、強風による飛砂から家や農地を守るため、江戸時代から先人の努力により砂浜にクロマツが植栽されてできた林で、日本海中部沖地震(1983)の際にも津波による内陸部の被害を最小限に抑えるなど、貴重な緑の遺産です。
- 東日本大震災後、海岸防災林の役割が見直されるなか、地域の方々と森林管理署との協働による風の松原の保全管理の取組を推進します。

### 【平成26年度の主な取組予定】

- 地域の方々と協働し、先人の遺産であるクロマツの林を引き継ぐエリアとして、後谷地国有林のトリムランニングコースの内側(約30ha)を「クロマツ林協働整備エリア(仮称)」とします。

- 地域の方々に対する説明会を開きます。(6月初旬予定)
- エリア内で活動を行っていただくボランティア団体と、活動を行う区域、活動内容等について協定を結び、協働して森林整備等の活動に取り組みます。(8月頃の協定締結を目指します。)

- クロマツ林協働整備エリア外でも、海岸防災林としての役割を十分に果たすよう、森林計画に基づき必要な施業を進めます。また、美化清掃活動等、地域の方々による保全管理活動が活発に行われるよう連携を進めて参ります。

